東北地方

名前

問1　東北地方に位置する6つの県のうち、県名と、その行政の中心地である県庁所在地の名称が異なっている県の組み合わせとして正しいものを、次の中から選びなさい。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. 青森県と秋田県
2. 岩手県と福島県
3. 山形県と福島県
4. 岩手県と宮城県

問2　東北地方では、8月上旬に「青森ねぶた祭」「秋田竿燈まつり」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」などの大規模な祭りが集中して開催されます。これらの夏祭りの日程が、8月2日から8日にかけて互いに少しずつ重なり合うように設定されている主な理由として、最も適切なものはどれですか。（2026年 長野県公立入試 類似）

1. 各地域の農作業が一段落する時期が異なるため、古くからの習わしに従って厳密に日程を分けているため
2. 観光客が複数の祭りを一度の旅行で巡る「周遊」を可能にし、地域全体の観光振興につなげるため
3. 冷害などの気象災害が発生しやすい時期を避け、最も気温が高く晴天が期待できる期間に限定するため
4. 祭りに参加する囃子手や踊り手の不足を補うため、周辺の市町村から互いに応援を出しやすくするため

問3　日本の農業に関する統計において、田と畑を合わせた「耕地面積」のうち、稲作が行われる「田の面積」が占める比率のことを何と呼びますか。（2021年 香川県公立入試 類似）

1. 国土面積に占める農地の割合
2. 耕地面積に占める田の割合
3. 田の面積に占める畑の面積の割合
4. 農家数に占める専業農家の割合

問4　東北地方の太平洋側では、夏に「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東風が吹くことで、気温が上がらずに農作物の生育が妨げられる「冷害」が発生することがあります。このような自然条件を克服するために行われてきた、東北地方の稲作に関する取り組みとして最も適切なものはどれですか。（2017年 兵庫県公立入試 類似）

1. 大規模な温室を建設し、夏の間も人工的に気温を上昇させて熱帯地域の稲を栽培するようにした。
2. 耐冷性に優れた品種改良を重ねるとともに、高品質な銘柄米を安定して生産する体制を整えた。
3. やませの冷涼な気候が稲の成長を助けることを利用し、生産量を無制限に増やす方針をとった。
4. 冷害による収穫不足を補うため、米から小麦や大豆への全面的な作目転換を地域全体で行った。

問5　東北地方の地形と河川の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2016年 和歌山県公立入試 類似）

1. 北上川は岩手県北部から南下し、仙台平野を経て太平洋に注ぐ、東北地方で最も長い河川である。
2. 北上川は青森県から岩手県を北上し、三陸海岸の複雑な地形を通って太平洋に注ぐ河川である。
3. 最上川は岩手県から秋田県へと流れ、奥羽山脈を横断して日本海に注ぐ東北地方最大の河川である。
4. 阿武隈川は山形県を源流とし、庄内平野を流れて日本海に注ぐ、日本三大急流の一つである。

問6　東北地方の各県における農業統計に基づき、土地利用や生産状況について説明した次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、宮城県の総面積に対する耕地面積の割合は約17.2%、青森県は約15.5%です。（2024年 宮城県公立入試 類似）

1. 青森県は東北地方で最も総面積が大きいため、山地が多いにもかかわらず耕地面積の割合も東北6県で最大である。
2. 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。
3. 秋田県と山形県は東北を代表する米どころであり、この2県だけで東北地方全体の米の産出額の半分以上を占めている。
4. 岩手県は、広大な土地を活かした畜産業が極めて盛んであり、県全体の農業産出額の7割以上を畜産が占めている。

問7　福島県いわき市の小名浜、岩手県の盛岡、群馬県の前橋、石川県の金沢の四地点における気候を比較したとき、一月の平均気温が約四度と冬でも比較的温暖で、一月の降水量が約五十七ミリメートルと、冬に乾燥する太平洋側の気候の特徴が顕著に表れている都市はどこですか。（2024年 新潟県公立入試 類似）

1. 前橋
2. 小名浜
3. 金沢
4. 盛岡

問8　東北地方の太平洋側に位置する岩手県では、夏に吹く冷たく湿った北東風（やませ）による被害を最小限に抑えるための工夫が行われています。岩手県の米の作付面積において、全体の7割を超える高い割合を占めている、冷害に強い性質を持つ品種として適切なものを選びなさい。（2026年 三重県公立入試 類似）

1. つや姫
2. ひとめぼれ
3. あきたこまち
4. コシヒカリ

問9　山形県の工業に関する記述において、内陸部と沿岸部の地域的な特色を正しく説明しているものはどれですか。（2021年 東京都公立入試 類似）

1. 内陸部では伝統的な食料品工業が工業出荷額の大部分を占めており、沿岸部では北前船の寄港地であった歴史から、現在は繊維工業が中心となっている。
2. 内陸部では広大な土地を活かした自動車の組み立て工場が集中的に立地し、沿岸部では豊富な水産資源を加工する食料品工業が工業の主体となっている。
3. 内陸部の盆地周辺には、高速道路の整備に伴って電子機械工業などの工場が立地し、沿岸部には港湾を活かした石油化学コンビナートや鉄鋼業が立地している。
4. 内陸部では豊富な森林資源を利用したパルプ・紙工業が発達しているが、沿岸部には大規模な工業地帯は見られず、観光業が中心の産業構造となっている。

問10　岩手県の伝統的工芸品である南部鉄器について、その生産地や特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 弘前市を中心に生産され、何層にも塗り重ねられた漆の模様が特徴である。
2. 盛岡市や奥州市で生産され、鉄瓶や茶道具などの日用品として広く知られている。
3. 天童市で生産され、良質なツゲの木を加工して作られる駒が全国的なシェアを誇る。
4. 会津若松市で生産され、金粉や銀粉で装飾を施す蒔絵の技法が有名である。

問11　日本の地方別の特徴について、ある地方では面積割合（約17.7%）が人口割合（約7.1%）の2倍以上となっています。このデータから読み取れる東北地方の実情と、比較対象となる他の地方との関係について述べた文として正しいものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 面積割合と人口割合の差が小さいため、中部地方と同様に人口が各県に分散し、全国平均に近い人口密度を保っている。
2. 広大な面積に対して人口が少ないため人口密度は低く、人口が集中する関東地方などとは対照的な指標を示す。
3. 人口密度が全国で最も低い水準にあるため、東北地方には人口が100万人を超える都市や政令指定都市は一つも存在しない。
4. 人口割合が面積割合を大きく下回っているのは、広大な土地のすべてが工業地帯として利用され、居住に適さない場所が多いからである。

問12　東北地方の中央を走る奥羽山脈を挟んだ、日本海側の秋田市と太平洋側の宮古市の気候の違いについて説明した文として最も適切なものを1つ選びなさい。（2022年 宮崎県公立入試 類似）

1. 年間を通じた降水量は宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市と宮古市でまったく同じである。
2. 冬の降水量も夏の平均気温も、日本海側に位置する秋田市の方が低い。
3. 冬の降水量は太平洋側の宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市の方が低い。
4. 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 岩手県と宮城県	東北地方の6県において、多くの県では県名と県庁所在地名が一致していますが、岩手県と宮城県の2県は名称が異なります。岩手県の県庁所在地は盛岡市であり、宮城県の県庁所在地は仙台市です。これに対し、青森県（青森市）、秋田県（秋田市）、山形県（山形市）、福島県（福島市）は、いずれも県名と都市名が一致しています。
問2	答え 2 観光客が複数の祭りを一度の旅行で巡る「周遊」を可能にし、地域全体の観光振興につなげるため	東北地方の主要な夏祭りは、近接する各県が連携して開催期間を調整しています。例えば、青森では2日から7日、秋田では3日から6日、仙台では6日から8日といった具合に日程が設定されています。このように意図的に期間を連動させることで、観光客が1回の旅行で複数の祭りを訪れる「周遊観光」を促し、宿泊客の増加や滞在時間の延長といった経済効果を地域全体にもたらす工夫がなされています。
問3	答え 2 耕地面積に占める田の割合	日本の耕地は大きく「田」と「畑」に分けられます。この両者を合わせた合計面積に対する水田の比率を算出することで、その地域がどれほど稲作に特化しているかを知ることができます。これは土地利用の特色を示す重要な指標となります。
問4	答え 2 耐冷性に優れた品種改良を重ねるとともに、高品質な銘柄米を安定して生産する体制を整えた。	東北地方は古くから「やませ」による冷害に悩まされてきましたが、農業試験場などを中心に寒さに強い稲の品種改良が進められてきました。現在では、単に寒さに強いだけでなく、「コシヒカリ」などの系統を継承した「ひとめぼれ」や「あきたこまち」といった食味の良い銘柄米（ブランド米）の生産が盛んになり、全国的な産地としての地位を確立しています。
問5	答え 1 北上川は岩手県北部から南下し、仙台平野を経て太平洋に注ぐ、東北地方で最も長い河川である。	北上川は岩手県から宮城県へと南へ流れる特徴を持ち、下流には広大な稲作地帯である仙台平野が広がっています。最上川は山形県内を流れて日本海に注ぐ河川であり、阿武隈川は福島県から宮城県にかけて流れます。河川ごとの流れる方向や、関係の深い平野の名称をセットで理解しておく必要があります。
問6	答え 2 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。	土地利用の状況を示す指標として「総面積に対する耕地面積の割合」があります。宮城県は仙台平野という米づくりに適した平野部を持つため、この割合が約17.2%となっており、面積の大きい青森県（約15.5%）よりも高い比率で土地が耕作に利用されています。岩手県の畜産や秋田・山形の米の生産割合については、統計上そこまで極端な集中（7割超や2県で過半数など）は見られません。
問7	答え 2 小名浜	福島県浜通りに位置する小名浜は、東北地方でありながら冬でも一月の平均気温が氷点下にならない温暖な気候が特徴です。これは、付近の海域を流れる暖流の黒潮（日本海流）の影響を強く受けているためです。選択肢のうち、盛岡は緯度が高く内陸のため冬の寒さが厳しく、前橋は内陸部特有の気温差が激しい気候であり、金沢は日本海側の気候に属するため冬の降水量（降雪）が非常に多くなります。
問8	答え 2 ひとめぼれ	東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から吹く「やませ」の影響で気温が上がらず、農作物の生育が妨げられる「冷害」が発生しやすくなります。この対策として、岩手県などの地域では寒さに強い性質を持つ「ひとめぼれ」を重点的に栽培しており、地域の気候特性に合わせた品種選択（作付面積の調整）が行われています。一方、日本海側の秋田県では「あきたこまち」が多く栽培されています。
問9	答え 3 内陸部の盆地周辺には、高速道路の整備に伴って電子機械工業などの工場が立地し、沿岸部には港湾を活かした石油化学コンビナートや鉄鋼業が立地している。	山形県の工業は地域によって明確な特色があります。内陸部の盆地には、製品が小型で輸送コストを抑えられ、高速道路網による迅速な輸送が求められる電子機械工業が多く立地しています。一方で、沿岸部の酒田市などでは、原材料の輸入や製品の大量輸送に便利な港湾機能を活かし、石油化学コンビナートや鉄鋼などの重化学工業が発達しました。
問10	答え 2 盛岡市や奥州市で生産され、鉄瓶や茶道具などの日用品として広く知られている。	岩手県の盛岡市と奥州市は古くから鋳物産業が盛んな地域であり、南部鉄器は鉄瓶や鍋などの実用的な道具として発展してきました。現在では、伝統的な黒色だけでなく、海外向けにカラフルな塗装を施したティーポットが生産されるなど、現代のニーズに合わせた工夫も行われています。
問11	答え 2 広大な面積に対して人口が少ないため人口密度は低く、人口が集中する関東地方などとは対照的な指標を示す。	東北地方は、面積割合が約18%に対して人口割合が約7%と、土地の広さに対して人口が少ないという特徴があります。これにより、人口密度は全国的に見て低くなります。これは、狭い面積に膨大な人口が集中する関東地方などの都市圏とは正反対の統計的傾向です。なお、東北地方にも宮城県の仙台市のような政令指定都市は存在しており、地方内での人口分布には偏りも見られます。
問12	答え 4 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。	秋田市は冬に北西の季節風の影響を受けて降水量（降雪量）が多くなります。一方、宮古市は夏に冷たく湿った風（やませ）が吹き込むため、奥羽山脈の西側にある秋田市に比べて夏の平均気温が低くなる傾向があります。